

数ベクトル空間  $\mathbb{R}^n$  の場合を考えよう.  $e_i^o := (0, \dots, 0, 1^i, 0, \dots, 0)$  ( $i = 1, \dots, n$ ) とする. ここで,  $1^i$  は  $i$  成分が 1 であることを意味する. このとき,

$$O(V) = \{[(e_1^o, e_2^o, \dots, e_n^o)], [(-e_1^o, e_2^o, \dots, e_n^o)]\}$$

となるが,  $[(e_1^o, e_2^o, \dots, e_n^o)]$  を  $\mathbb{R}^n$  の正の向き (positive orientation),  $[(-e_1^o, e_2^o, \dots, e_n^o)]$  を  $\mathbb{R}^n$  の負の向き (negative orientation) という.  $n = 2$  のとき,  $[(e_1^o, e_2^o)]$  は反時計回り (anticlockwise rotation) とよばれ,  $[(-e_1^o, e_2^o)]$  は時計回り (clockwise rotation) とよばれる.  $n = 3$  のとき,  $[(e_1^o, e_2^o, e_3^o)]$  は右手系 (right-handed system) とよばれ,  $[(-e_1^o, e_2^o, e_3^o)]$  は左手系 (left-handed system) とよばれる.

問 1.2.2  $(e_1, \dots, e_n)$  を  $\mathbb{R}^n$  の基底とし,  $e_i = (e_{i1}, \dots, e_{in})$  ( $i = 1, \dots, n$ ) とする. このとき,  $\det(e_{ij}) > 0$  ならば,  $[(e_1, \dots, e_n)]$  は  $\mathbb{R}^n$  の正の向きであることを示せ.

外積について, 次の事実が成り立つ.

**命題 1.2.3**  $V$  のベクトル  $v_1, \dots, v_{n-1}$  が 1 次独立系であるとき, 次の事実が成り立つ.

- (i)  $v_i \cdot (v_1 \times \dots \times v_{n-1}) = 0$  ( $i = 1, \dots, n-1$ ) である;
- (ii)  $[(v_1, \dots, v_{n-1}, v_1 \times \dots \times v_{n-1})]$  は  $\mathbb{R}^n$  の正の向きである;
- (iii)  $\|v_1 \times \dots \times v_{n-1}\|$  は,  $\text{Span}\{v_1, \dots, v_{n-1}\}$  ( $= \mathbb{R}^{n-1}$ ) の領域

$$D = \left\{ \sum_{i=1}^{n-1} \alpha_i v_i \mid 0 \leq \alpha_i \leq 1 \quad (i = 1, \dots, n-1) \right\}$$

の  $(n-1)$  次元体積 (つまり,  $(n-1)$  重積分  $\int \dots \int_D 1 dx_1 \dots dx_{n-1}$ ) に等しい.

証明  $v_i = (v_{i1}, \dots, v_{in})$  ( $i = 1, \dots, n$ ) とする. (i) の主張は, 命題 1.2.2 を用いて次のように示される:

$$v_i \cdot (v_1 \times \dots \times v_{n-1}) = |v_i, v_1, \dots, v_i, \dots, v_{n-1}|$$

$$= \begin{vmatrix} v_{i1} & \dots & v_{in} \\ v_{11} & \dots & v_{1n} \\ \vdots & \dots & \vdots \\ v_{i1} & \dots & v_{in} \\ \vdots & \dots & \vdots \\ v_{n-1,1} & \dots & v_{n-1,n} \end{vmatrix} = 0.$$

次に, (ii) の主張を示そう.  $A = \begin{pmatrix} 1 & \dots & 1 \\ v_{11} & \dots & v_{1n} \\ \vdots & \dots & \vdots \\ v_{n-1,1} & \dots & v_{n-1,n} \end{pmatrix}$  とする. この

とき,  $v_1 \times \dots \times v_{n-1} = (A_{11}, \dots, A_{1n})$  となり, 一方, 行列式の展開を用いて,

$$\begin{vmatrix} v_{11} & \dots & v_{1n} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ v_{n-1,1} & \dots & v_{n-1,n} \\ A_{11} & \dots & A_{1n} \end{vmatrix} = \sum_{j=1}^n A_{1j}^2 > 0$$

が示される. それゆえ, 問 1.2.2 から,  $(v_1, \dots, v_{n-1}, v_1 \times \dots \times v_{n-1})$  が  $\mathbb{R}^n$  の正の向きであることがわかる. (iii) の証明は長い計算を要するので, 省く. □

命題 1.2.3 によれば,  $\mathbb{R}^3$  の 1 次独立なベクトル  $v_1, v_2$  の外積  $v_1 \times v_2$  は図 1.2.1 のようになる.

スカラー  $n$  重積について, 次の事実が成り立つ.

**命題 1.2.4**  $(e_1, \dots, e_n)$  を  $V$  の基底とし,  $\mathbb{R}^n$  の領域  $D$  を

$$D = \left\{ \sum_{i=1}^n \alpha_i e_i \mid 0 \leq \alpha_i \leq 1 \quad (i = 1, \dots, n) \right\}$$